

平成29年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



平成29年12月
海老名市立中新田小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「古文」に関して、全国平均を上回っており、古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことができる児童が多いです。
- 「書く能力」では、手紙の構成を理解し、後付けにおける署名やあて名日付の位置関係を正しく捉えることができます。

《努力を要する所》

- 漢字の読み書きの正答率が全国平均に比べて低いです。無解答率も高く漢字を書くことに対して苦手意識を持っている児童が多いです。

参加のたいしょう→対象

- 「話すこと・聞くこと」では、グループで話し合ったことについて学級全員に伝えるため各グループの報告者はどのようなことを報告しているかを正しく捉えることに課題が見られます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「話すこと・聞くこと」では、スピーチメモを使う良さについて捉えることができます。
- 「書くこと」では、文章の構成の工夫について、あてはまるものを選択することができます。
- 選択問題は、全国平均を上回っていました。

《努力を要する所》

- 「話すこと・聞くこと」では、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えをまとめて話すことに課題が見られます。
- 「書くこと」では、目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書くことに課題が見られます。また、自分の考えをまとめようという意欲に欠けるため無解答率が高いです。

これまでの取組から

- 朝読書を継続的に実施しているので、落ち着いて学習に取り組み文章を読んで内容をつかむことができているように思われます。
- 条件に合わせて具体的な事柄をもとに自分の考えをまとめようとする意欲を持たせることに関して、重点的な指導を継続します。

今後の具体的な取組について

- 様々な話し合いの場面において、児童一人ひとりにそれぞれ司会者や提案者参加者などの役割を決めて話し合い、豊かな相互交流を図ることができるよう取り組みます。
- 漢字を習得し、語彙を拡充するために、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣をつけていきます。

算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と計算」では、整数と小数の加法や商を分数で表すことができます。
- 「図形」では、高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解しています。また、円を用いた多角形の描き方についても理解しています。

《努力を要する所》

- 「数と計算」では、整数の乗法（3位数）×（2位数）の計算方法の理解に、課題が見られます。
(例： $123 \times 52 = 6,396$)
- 「数量の関係」では、示された場面を適切に読み取って式に表したり、資料から読み取った情報を表に整理したりすることに課題が見られ、無解答率も高くなっています。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「数量関係」では、割合の意味を理解し、正しいグラフを選ぶ問題で全国平均に比べて正答率が高くなっています。
- 「数と計算」では、示された条件をもとに立式したり、数を変更しても同じ関係が成り立つということを図に表現できたりしています。

《努力を要する所》

- 問題に示された2つの数量関係を一般化して捉え、そのきまりを言葉や式を用いて説明する問題の正答率が低く、無解答率も高くなっています。
- 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断し、その判断の理由を言葉や式で説明することに課題があります。
(例) 1円玉の直径(20mm)をもとにして14%長くなっているのは100円玉(直径22.6mm)、500円玉(直径26.5mm)のどちらか。

これまでの取組から

- 毎週水曜日に四則計算の復習を中心とした算数タイムを実施しています。「数と計算」の領域は全体的に正答率が高く、その効果が表れています。また「図形」では、デジタル教科書などのICT機器や図形の具体物を用いることで、高い正答率につながったと考えられます。

今後の具体的な取組について

- 問題の意味を理解したり、示された場面を適切に読み取ったりすることに課題が見られました。算数の用語について振り返りを行い、問いに対する答えを正しく求められるよう取り組んでいきます。また言葉や式で説明する問題に丁寧に取り組んでいきます。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 算数の授業がよく分かる・もっと簡単に問題を解く方法がないか考えるという質問に対し、肯定的な回答が80%を超えており、前向きに取り組んでいる児童が多いようです。
- 読書が好きという回答が80%を超えており、日常的に読書に親しんでいる様子が見えます。

《課題と思われる所》

- 「授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで教えてくれますか」という質問に対し、否定的な回答が約25%あり、学習の理解が充分でないままの児童も見られます。
- 「原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」という質問では、約半数の児童が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答しており、長文を書くことについて苦手意識を持つ児童が多いことがうかがえます。

生活について

《よかった所》

- 平日に、TV・ビデオ・ゲーム等をする時間は1時間以内が最も多く、4時間以上する児童が5%程度で、時間を考えながら行っていると思われる児童が多いです。
- 自分にはよいところがあると回答した児童の割合が全国平均と比べてかなり高く、自己肯定感を持っている児童が多いと思われます。

《課題と思われる所》

- 地域の行事に参加している、地域や社会をよくするために何をすべきか考えていると回答した児童の割合が20%、13%であり、地域に対して積極的にかかわろうとする意識は、やや低いと思われます。
- 友達の話を最後まで聞く、友達の考えを受け止めて自分の考えを持つと回答した児童の割合が、55%、38%と、県・全国平均よりやや低くなっています。

これまでの取組から

- 水曜日の朝自習を「算数タイム」として設定し、全校一斉に算数の問題に取り組んでいます。主に計算問題を中心に、基礎的な学力の定着を目指しています。
- 図書ボランティアによる「読み聞かせ」、お話玉手箱の方による「お話会」など、本に親しむ機会が多くあります。児童も、毎回、楽しみにしています。
- 「生活リズムチェックカード」を定期的に実施しています。ゲームやテレビの時間についての設問もあり、時間を意識するようになってきています。

今後の具体的な取組について

- 校内研究では、「子どもたちの心が育つ人間関係づくり」をテーマに取り組んでいます。子どもたちにとって居心地のよいクラスが大切であると考えています。お互いを受け入れ、大事にし合える集団を作っていくことによって、「友達の話を最後まで聞く、友達の考えを受け止めて自分の考えを持つこと」に対する態度が身につくことを期待しています。
- 学習内容の定着のために、休み時間などを利用して、理解が不十分な点を補ったり、まなびっ子の利用を促したりすることで学習への理解を深めたいと考えています。



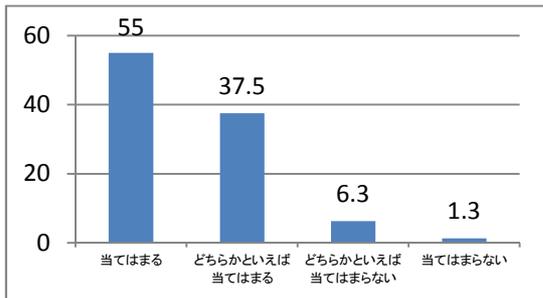
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 人の話を最後まで聞きましょう。

話す人の目を見て、最後まで話を聞きましょう。

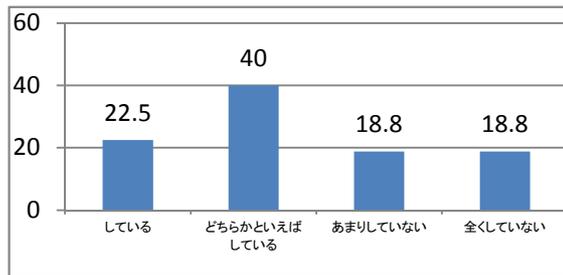
友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



2 家庭でルールを決めましょう。

テレビを見る時間やゲームに費やす時間を約束しましょう。

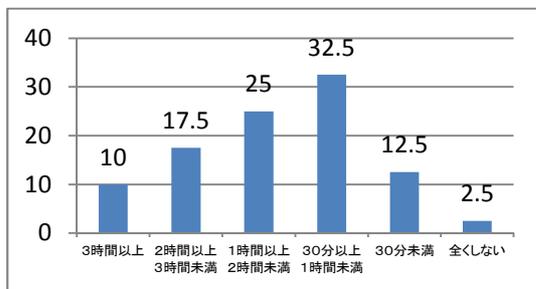
テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか。



3 家庭学習の習慣をつけましょう。

「学年×10分」を目安に、家庭での学習時間を決めましょう。

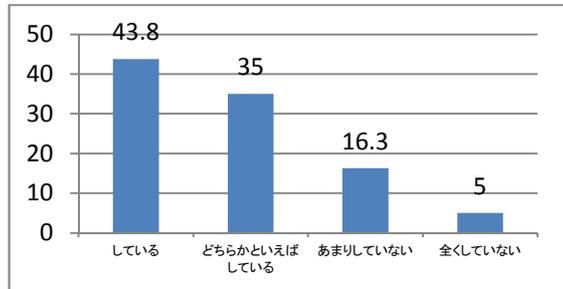
普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。



4 子どもとたくさん話しましょう。

学校での出来事について、話をする時間をできるだけ作りましょう。

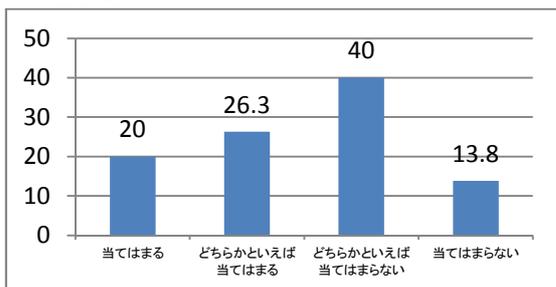
家の人と学校での出来事について話をしますか。



5 地域の行事に進んで参加しましょう。

地域の行事に参加して、社会の一員としての意識を育てましょう。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。



6 規則正しい生活をしましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」を実践しましょう。

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

